

Noisette Press

ノアゼット

現地在住ライターがリアルなパリをお届け

Sept. 2024

Numéro 128

9

10th ANNIVERSARY



Au Café photo by Saori

Japonais 突撃インタビュー

今月のお客さま

江藤英樹さん



人を喜ばせたい——その思いからフランス修業を経て、パティシエに

2024年3月に代官山にオープンした「PAYSAGE—Hideki Eto」。店名はフランス語で風景・景色を意味し、懐かしさや優しさ溢れる洋菓子で人気を集めているお店のシェフパティシエを務めるのが江藤英樹さん。幼少期をイギリスで暮らし、東京でも数多のフランス人オーナーのレストランでシェフパティシエとして渡り歩いてきた江藤さんにパティシエになるまでと、フランスについても伺いました。

原点は母のケーキとヨーロッパの暮らし

◆お店で使うフルーツはご自身で農家さんに出向くこともあるのか？

この前は農家さんから連絡をもらってスモモ（ハニーローザ）を取りに行ったんです。その前はスタッフ全員でイチゴを収穫にも行きました。僕はレストランパティシエが長くて、その経験から素材にこだわっているんです。

素材に関しては、日本にはまだまだおいしいものがあるので、きちんと現地まで行って見た上で、僕たちはそれを大切に使って、おいしく提供する。お客様にもその思いを伝えられるとお互いwin-winじゃないですか。僕の中では当たり前になっているのですが必要なことだと思います。

◆小さい頃からパティシエになるのが夢でしたか？

最初はバイオリニストになりたかったんです。5歳の時に自分で習いたいと言ったらしくて、高校卒業まで習っていました。7歳くらいまで父の仕事の都合でイギリスに住んでいたのですが、僕は英語もしゃべれないのに、現地のバイオリンの先生とコミュニケーションとっていらしいんです。

◆イギリスでの思い出は？

よくラズベリー狩りに連れていってもらってましたね。すごく美味しかった。お店のポタニカルなデザインも、イギリスの家の近くの植物園をイメージしています。当時は母親が家でよくお菓子を作ってくれて、それが嬉しかったですね。お祝いの時によくケーキを食べていて、実体験から仕事につな

るという感じでしょうか。そこが原点なのでうちの菓子は家庭的な優しさがあるのだと思います。

＋アルファで人を喜ばせたい

◆パティシエになりたいと思ったのはいつ？

本当は音大に行きたかったんですがピアノができてし諦めたんです。その時にはモノづくりに関わりたい気持ちだったので、ケーキ作ろうかなと。僕は人を喜ばせるのが好きなんです。別にパティシエやバイオリニストでなくてもよかったです。子どもの時もサプライズが好きで、親が寝てる間に朝ご飯つけてじゃーん！と驚かせたり。だんだんエスカレートして実はお昼ご飯もあります！みたいな。たとえばですけど（笑）。それは仕事にも活かしていて、お客さんの期待値を超えていかないと、と思うんですよ。パティシエも面白いですよ。

◆そのあと、調理学校へ？

どうせやるなら設備も規模も違う大阪の辻製菓の本校に行こうと。その後、洋菓子の発祥であるフランス菓子がやりたくて、二年次に辻製菓のフランス校へ。半年は学校に通い、半年間はスタージュ（研修）で現地のお店に放り込まれるわけです。フランス語は学校で少しやりつつも、現場に入ると自然と身につくものですね。

◆スタージュはどうでした？

楽しかったです。僕は好きですけどね、フランクな外国人のスタイルが。仕事にしても人生楽しんでる感じがします。僕が研修したのは南仏のカヌで、

みんなテラスで朝から飲んでたり、開放的で雰囲気もよかったです。フランス人の友達もたくさんできましたね。

◆日仏では現場の雰囲気が違いますか？

ちょっと違うかもしれないなあ。今はだいじいと思えますけど、昔はもっと厳しかったから。フランス校は現地を見て勉強できるのでいいんですが、日本の現場で通用しないと意味がないんですよ。日本ではお店の中で計量や販売からスタートしますし、思っていたのと違う、とって挫折する子が多いです。僕の学年は1000人いましたが、今でもパティシエを続けているのは数人ですね。

◆現地のおすすめレストランはありますか？

モナコにあるアランデュカスのレストラン『レイキャンズ』は感動しました。結局そこに感動して、『ページュアアランデュカス東京』で日本のキャリアをスタートさせました。

◆フランスへの思いと、これからやってみたいことは？

フランス、好きですよ。僕が今まで働いていたところは、みんなフランス人オーナーのところでしたし、お店にフランス人が来てくれると、フランス語で話してみたくなったり。これからやってみたいことは特にはないです。平和でいてくれれば！

Instagram @paysage_he



毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。

毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国



語り 浅野九ひろ子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

制作 tv asahi テレビマニオン VIVA)) 企画協力 ビデオプロモーション 提供 TOKYO GAS

マダム愛の わたくし ミュラン

第128回

いろいろと嬉しい!? 魚介類専門のカジュアルバー

パリは料理が重すぎて、魚介類が恋しい〜小腹を満たしたい! そんなわがままに答えてくれるのがこちらのお店 [L'avant de la Comptoir]。魚介のお料理のみのタパスバーで、全てのお料理をシェアしながら楽しめます。

その日仕入れた新鮮な牡蠣のプレートもあるけれど、この日は欲望のまま次々に食べたいものを頼んでいきました。イカ墨のコロッケに、グリルしたタコ。イカのサラダにマグロのタルタル。付け合わせにいちごやフランボワーズを使っていることが多く、その分、ビネガーの酸味を控えめにするというお料理達は、日本人にはちょっと馴染みがないかも知れども、試してみる価値はありますよ。いろいろと新発見ができて楽しめます。

バーにしてはお味がけっこう薄味なので、あっさり頂けるのも特徴です。さらにお野菜もたっぷりなのが嬉しい〜。ワイン以外にも料理に合うジュースの種類が豊富なので、アルコールが苦

手な方でもサクッと食べに行けます。パリで作られているという珍しいリモネードもあるんですよ。こちらの店舗、隣には違うコンセプトのバーがありそちらは「海 (La Mer)」ではなく「土地 (La Terre)」専門。お肉系がいただけるらしいです。そちらも気になります! パリのど真ん中、しかも駅の目の前があるので便利だし、予約が取れないお店なので皆がふら〜と行ってふら〜と帰るスタイルなのも旅行で疲れている時にはありがたいので覚えておくと重宝するお店かと思えます。

- A. 店内の壁中に落書き!? 雰囲気だけでも十分楽しめるタパスバー。
- B. 2人でシェアするのにちょうど良いポーション。いろいろと楽しめるのが嬉しい。1人なら2〜3皿頼むのがベスト。
- C. マグロのタルタルの酸味がフランボワーズだったのはちょっと驚いたけれど、不思議と合ってます。
- D. パリのリモネード発見!ここでしか見たことがありません。見つけた人はぜひ飲んでみてくださいね〜。

今月のハート

料理	♥♥♥♥♥
ドリンク	♥♥♥♥♥
サービス	♥♥♥♥♥
雰囲気	♥♥♥♥♥
コスパ	♥♥♥♥♥

— L'avant de la Comptoir —

3 carrefour de l'Odeon 75006
<https://camdeborde.com>

writer **マダム愛**

東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやらに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog **マダム愛の徒然パリ日記**
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog **マダム愛のアパートの鍵貸します**
<https://www.madameai.com/>

マジイ!? 翻訳家レミの

ここがびっくり 世界文学

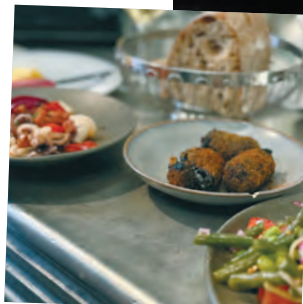
ゆるキャラに より相応しい座を

夏 が終わってしまう。それぞれの季節にはもちろん良いところがあるとしてもやはり大抵のフランス人にとってバカンスに相当するこのサマータイムが終わるとブルーな気分になる。日本みたいに毎週のようにお祭りがある訳ではないが、今回はオリンピックというイベントの中のイベントがあっけなりの楽しいムードになった。記録的な視聴率やスポーツに対する前代未聞の情熱を示すようにフランス全国が盛り上がり、開会式の謎な演出やセーヌ川で泳いだ選手の健康を除いたらオリンピックは大成功を収めたと言えるだろう。それこそ「祭りの後」になった今は皆がすっかり「JOSTALGIQUE」な気分になった(オリンピックとノスタルジックから成り立った五輪口スという意味の新造語)。

とはいえ9月を迎えたら新学期なので大体その時は教師の数が足りないとか学費が高いとか

無数の理由で全国各地に抗議が生まれる。予想される機動隊との衝突などは視聴者のスペクタクル欲を満たしてくれるに間違いはない。何より「オリンピック中は政治的な不安定を避けなければならない」という口実で6月の総選挙の結果を無視した大統領はいまだに新しい首相を決めていないので、政治的な面ではフランスが安定しているとはいづらい。どうせ次の首相は誰になるかが支持率は極めて低いままになるだろうし、候補者の将来のビジョンや哲学より同性愛だの犬派だのどうでもいい要素が目立つなら、しばらくフリージューにその首相の座を譲たらどうだと提案したくなる。オリンピックの雰囲気が続く上、いくら不満が溜まってあんな可愛いキャラに国民は怒りの矛先を向けられないような気がする。一石二鳥の作戦になるのではないかと。G7など首脳サミットに出席しているところを見たいと思う視聴者も多いはずだし、さすがにセーヌ川で泳いでもらったらパリ市長よりもっと情けない風景になると思うが。

あー、今回は特に本を読んできてないけれどもイギリスに旅した際にどの本屋にも柚木麻子氏の『BUTTER』が推されていたように見たので、一応気にはなっている本です。



『BUTTER』
 柚木麻子 著
 新潮社

writer **Rémi BUQUET**

翻訳家・通訳者

Contact buquetremi@negoto.fr

Instagram [@remisansparis](https://www.instagram.com/remisansparis)

とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

800年の時を越えて佇むゴシックの至宝

果 てしなく続く平野の中に突如現れる高い塔は巡礼者たちの灯台になるようにと小高い丘に建立されたという。世界遺産シャルトル大聖堂。中世キリスト教の世界を完全な形で残しているとされ、1979年フランス初の世界遺産に登録された文化財の一つ。教会自体の歴史は古く、700年代にはこの地にあったと言われています。

1194年の大火で大半の聖堂が焼け、現在の建物は再建されたもの。しかしファサードは被害が少なくほぼ12世紀半ばのまま。シャルトルはゴシック建築の代表とされますが、12世紀半ばはまだロマネスクからゴシックへの過渡期。ロマネスクの質実剛健な趣きも残る聖堂です。左の小塔は、16世紀に改築が行われ少し豪華になって

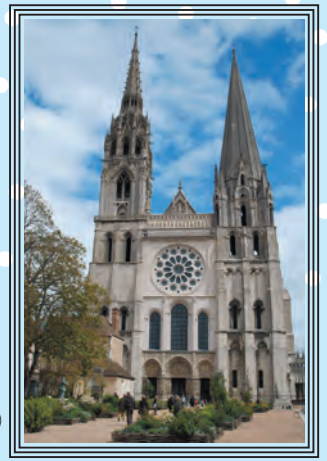
シャルトル大聖堂
シャルトル
サントル=ヴァル・ド・ロワール地域圏

います。右はロマネスク、左はゴシックという極めて珍しい両塔です。ロマネスク教会の建築の特徴は、石造の天井を支えるため壁は分厚く広く、そのため窓は小さめ。

ゴシック教会は、石造ですが、高い天井や大きな窓を支えるためにフライングバットレスという建築方法を採用するようになります。大聖堂の建物の外側に見られる突き出た補強用の構造のことです。それもデザインの一部として昇華され、ゴシック建築の特徴となっています。教会を見る時、そんなところに注目するのも面白いですね。

また、シャルトルといえばステンドグラスも有名。残っている物の多くは12~13世紀のもの。特に澄んだシャルトルブルーと言われる青いステンドグラスは、その色を出すため当時中東までコバルトを買い付けに行っていたそうです。パリから電車で約50分で行ける世界遺産。800年の時

を越え、いまも残る美しい佇まいに会いに行ってみませんか。



writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史&日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深堀りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/md750819c9bc7>

仏人添乗員リラの 日本リラ散歩



お祭りって、やっぱりいいね



幻の遊園地

日 本生活の好きなところは夏のお祭り。毎年楽しみの一つで、夏が来たなーと感じさせるイベントだ。しかしコロナが世を混乱させてからあまり行けていなくて、今年は再び楽しめるようになり、自分の中でやっと普通の夏に戻った年だった。

フランスでは、夏のお祭りといえば「Fête foraine (フェート・フォレーヌ)」! 移動式遊園地のことで、街の一角や路上が期間限定で遊園地に大変身。私のいた小さな田舎町でも、普通の小規模の遊園地に負けないぐらい豊富なラインナップのアトラクションが毎年わずか3日間やってきて、子どもの頃はすごく楽しかった思い出がある。街をぶらぶらしながら雰囲気だけを味わったり、ちよろっと乗ってみたり、すべてを満喫したりするなど、楽しみ方が自由だ。祭りと言えば屋台もあり、チュロス、わた飴、クレープ、ワッフルあたりが定番(基本甘い系多め)。子どもの時

は親に連れて行ってもらい、若者になってからは友達同士で満喫。一般的な遊園地に行くとは間がメインで遊ぶイメージがあるけど、移動式遊園地は夜が楽しい。朝1時まで営業のもの! アトラクションやブースからのネオンライトと音楽で日常を忘れ、街の中で遊ぶだけの幻の空間に迷い込むような体験だ。出入りが自由というのもとてもよくて、自分の街が小さかったので途中家で休憩してからまた遊びに出かけるのもよし。最近まで知らなかったけど、パリにも夏やその他の季節に移動式遊園地があるので、チャンスがあれば立ち寄ってみるのもおすすめ!



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とペランダの植物の世話。

トモクンの アレコレ、パリコレ、ナンザコレ~

フランスの期待を一身に背負う
新星クチュリエ
シャルル・ドゥ・ヴィルモラン

ク チュール組合のモード学校を経て、ファッションに特化した高等教育機関であるIFMを卒業したばかりのシャルル・ドゥ・ヴィルモランという弱冠23歳の青年が、2020年にオートクチュールコレクションで華々しくデビューしました。華々しくなったのは、彼の色鮮やかな作風のせいもありましたし、憂いのある表情をした美少年だったことも大きく影響したことでしょう。でも、何よりもドゥ・ヴィルモランという名字がフランス人の琴線に触れることとなり、ファッション業界のみならず、仏メディア全体が注目をしたのです。

シャルル・ドゥ・ヴィルモランは、著述家で社交家のルイズ・ドゥ・ヴィルモランを大祖母に持

ち、1970年代に権利を売ったため、すでに関係性はありませんが、パリ1区のセーヌ川沿いにある園芸店『ヴィルモラン』を経営していた家族の一員でもあります。ルイズ・ドゥ・ヴィルモランというと、あのアントワヌ・ドゥ・サン・テグジュペリやオーソン・ウェルズ、そして作家で文化相のアンドレ・マルローまでもが虜となった程の美貌を誇り、ジャン・コクトーが絶賛する程の文学的才能の持ち主でした。

そんなバックボーンのある青年がオートクチュールコレクションを発表するとなったら、皆応援しないわけはない。今年6月に発表されたコレクションには、ジバンシー族の女性や往年のスーパーモデルが出演し、フィナーレではマリ＝アニエス・ジロがダンスを披露しました。

そんな彼女なので、お声が掛からない訳がないですね。翌月に行われたオリンピックの開会式。園芸店『ヴィルモラン』から程近いパリ最古の橋、ポンヌフで披露されたダンスカンパニー「グラット・シエル」によるパフォーマンスでのダンサーたちの衣装を手掛けました。その数150名以上。

まあ、カラフルなのは良いのだけれど、やや過剰であり、ちよとばかり垢抜けなさが漂っていましたが。これが吉と出るか凶と出るかはわからないけれど、とりあえず名刺代わりにはなったはず。微力ながら、応援したいと思います。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友んのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友んのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>



第6回

次女、日本語学校の面談を受ける

日 本の小学校に1週間しか通ったことがないため、まだひらがなもカタカナも漢字もまともに習ったことがない次女アム。日本語学校に9月から通わせることにしました。

ちなみにお嬢はニューヨークにある塾に通うことに。だって……日本語学校も塾も通わせると高いから。マンハッタンにある日本語小学校は3つくらいはあるようなので、見学を申し込み、本人が「ここがいい」と言う学校に申し込むことに。

その学校は面接試験があるとのこと。あれ？誰でも申し込みれば入れるのかと思ってた……。申し込みも記入項目に「**学業などでの表彰経験** 6歳にあるかい。もしかして普通あるの？ 面談も「面談参加は保護者の1名のみ」。これは若旦那だろう！アムのプレゼンよろしく頼む。いざゆかん！卒園式の時のワンピースを流用。若旦那もジャケットを着せて、やる気があるように、ちゃんとした家のように見せよう作戦。私とお嬢は応援団として、建物の外までついていってエールを送るぞ。

前のめり面接時間より25分前に着いてしまい、ビル前で時間を潰していたら、通りがかりの親切なアメリカ人に「そんなところにいないで！こっちおいで！」とビルに招き入れられてしまった。私上下ユニクロ、綿のパンツにアロハシャツで所ジョージみたいな格好してるんですけど。断りきれずエレベーターに乗せられ、うっかり日本語学校に到着。

学校の先生も「あらっ？ あれっ？」ずいぶん早くきた上に所ジョージみたいなお母さんが登場して困惑している様子。次女アムは面談室に連れて行かれ、しばらくすると待合室に帰ってきました。これから若旦那も面談だな、と思いきや「ではお母様から見てお嬢様はどんな性格ですか？」えっ！ ええっ！ 面談するの?? あわわ。参加するつもりのない所さんとお嬢も面談に参加することになってしまった。私「とても努力家で、諦めない根気があ

て……」お嬢「でもねー、諦めたくないからってよく泣くんですよー」お！ま！え！は！！しー！！静かにー！！先生「お姉ちゃんから見てそうなのね〜。」アム「わたしよく、髪がボサボサになります」性格ではないかもしれない。先生「……髪の毛はどうかになりそうですね。では、お母様はなぜこの学校に通わせたいと思われましたか？」おか、おか、おかあさま、何も考えてなかった。私「えー、日本のことを忘れないで欲しくて……」弱い。志望動機弱すぎる。お嬢「でもねー、妹はねー、好き嫌いがなくてねー、なんでも食べるんだよ。特にポテトが好きです。」関係がないぞ！お嬢!!!

先生「あらいいですねー……お父様は特に伝えたいことなどおありですか？」若旦那「……優しい子です」。長い社会人経験があるコメントとは思えない。先生「それは素晴らしいですね。では結果は明日にお伝えします」とりあえず先生が欲しかった答えは与えられなかったという確信はあった。

とりあえず帰りの途中のグランドセントラル駅でプチ打ち上げ。アムに聞いたところ「お勉強、先生と一緒にやるのが楽しかった。お友達とも一緒にやりたいんだあ」なんてピュアな。誰の子なの。受からなかったら可哀想すぎる。結局先ほど「合格を伝えられて嬉しい」とメールをいただきました。ほっ。これで落ちていたら罪悪感で苦しむところでした〜。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

スイーツア・ラ・モード

私を通り過ぎたお菓子たち

リクエストが絶えない「パリ限定のもの」

多 くの店が外国に1号店を出店する時日本に白羽の矢が立つことが多いのは何故でしょう？ フランスのパティスリーも数多く海外1号店を日本にオープンさせていますね★フランスで人気の物を日本でも手に取ることができるのは嬉しいもの…で…す…がフランスを訪れる皆さんに私が1番受ける質問は、「フランスでしか購入できないスペシャルなお土産を教えてください！」です。フランスを愛する皆さんの探究心は熱い!!

今までいくつかお答えしてきた中で、大人女子から支持が高かったスイーツはやはりルイ・ヴィトンのショコラトリーで購入できるショコラ、パッケージがお洋服などの商品が入る箱と同じカラーで映えるというのが1番の理由！ 私は今回初めてマシュマロが中身のチョコがけヴィヴィエンヌちゃんを買ってみました〜見た目はとーっても可愛いですがお値段がかわいくないかなあ(笑)。 あっという間に口

photo by omusubi



ヴィヴィエンヌ6個入り25€ / [LV Dream] 2 Rue du Pont Neuf, 75001 Paris 営業時間: 月〜日 11〜19h ※時期により変更あり。

もうすぐ近くまで秋どころか冬の空気が近づいているなあ。写真は日光浴をする人で溢れる8月のパリブラージュ。

で溶けるマシュマロ…スイーツ好きには数足りないのではした〜。

writer おむすび

1年だけの語学留学のつもりが…水が合ったのか!? そのまま関西弁パリジェンヌに。ガイド歴10年以上。キラキラだけじゃないパリの親しみあるリアルをご案内中。

Instagram @OMUSUBI_Food_Paris

ご感想や配布希望、広告出稿などに関するお問い合わせは info@noisette-paris.net までお願いいたします。



▶ 野外映画で前に座ったインド人に突如UNOカードを配布されゲームスタート。

▲ 夏休みに行ったメキシコの天然泉セノーデで泳いだ後に「ママ文明では生糞を投げ込んだ」と知って恐怖。

Parisに住んだ気になるノアゼットプレス公式podcast

Cafe Noisette

ノアゼットプレス編集長 Aiko Yoshino

ファッションジャーナリスト Tomoaki Shimizu

住んでみたらこんなだった

カフェノアゼット

10年分のインタビュー特選集

- ✦ バンドマン、翻訳者、ナチュリスト、居合道の達人!?
- ✦ フツのフランス人が一番オモシロイ!
- ✦ 現地在住ライターのニッチなパリガイドも掲載

『パリに住みたくなったら読む本』
— フランス人120人に聞いた赤裸々暮らしナビ』

+ 本体価格1,500円(十税)
ご購入・お問い合わせは info@noisette-paris.net まで!

+ Amazon サイトでも購入可能です

大好評発売中!

英語だって日本語みたいに楽しくしゃべりたい

リアルライフ英会話 for Women

TAS & コンサルティング <http://www.jp-tas.com>

Noisette Press

À bientôt!

発行元: ノアゼット東京オフィス <http://www.noisette-paris.net/>
編集発行人: 吉野 亜衣子 編集: 小橋 桜子
タイトル illustrations: Masumi Yamaguchi